

# グローバル通信

2011.3 vol.20

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

日増しに春の訪れが感じられるようになってまいりました。時が経つのは早く、今年度も終わりに近づき修了と別れの季節です。どこか物悲しく感じられるこのごろ、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今号では、修士論文を中心に院生のみなさんの年度終盤にかけての活動を紹介させていただきます。また、今年度は本コースの講義に参加された一般財団法人 地域公共人材開発機構の方々の声や連載2回目となる「修了生の今」、インターンシップ報告など、盛りだくさんの内容となっております。(編集部)

びわ湖源流の郷で動き始めた高島らしい協働のかたち	1
「参加」をあきらめない——そのこだわりが人材を創ると信じます	1
院生自主シンポジウム	2
修士論文・課題研究一覧	2
お疲れさまでした!!	2
公開講演会 (レポート)	3
修了生の今 その2	3
地域公共人材開発機構 修了生紹介	4
インターンシップ報告	4
事務局インフォメーション	4



## びわ湖源流の郷で 動き始めた 高島らしい協働のかたち

西川 喜代治 (高島市長)

高島市は、琵琶湖に面し比良山系を仰ぐ美しい田園地帯にあります。琵琶湖も含めた面積は693km<sup>2</sup>で、県内で最も広く、奥山から里山へ、集落を通じて湖へつながる水の流れは、「びわ湖源流の郷」と呼ぶにふさわしいまちです。びわ湖の源流で生まれた高島の農林水産物や様々な特産物を、付加価値をつけてブランド化することにより、「地産地消」だけでなく、「地産外銷」を積極的に進めたいと考えています。

さて、本市は2005年1月、旧高島郡5町1村が合併して新しく高島市として生まれ変わりました。高齢化率は28%を超えており、少子高齢化に伴う地域活力の低下が懸念されているなか、未来の世代へと引継いでいける持続可能な地域をどう創っていくかが、大きな課題となっています。

地域が活力に溢れるためには、市民の創造力が欠かせません。市政を進める上で、市民協働のまちづくりはひとつの大きな柱であります。市内には200の区や自治会、100を超えるさまざまな市民団体が活動を展開していますが、合併直後、これらの連携や情報交換が十分でなく、より発展するためには、それぞれを結びつけ、応援する体制を整える必要がありました。

そのため、龍谷大学(LORC)のご協力のもと、「市民協働のまちづくり推進指針」を2008年3月に策定しました。その結果、まちづくり委員会の活性化やまちづくり活動拠点の設立、市民活動団体やNPOの交流会が開催されるなど、その成果が少しずつ表れてきています。

さらに、市民や地域団体、NPOおよび企業等の多様な主体の創造力を具体的に事業化するため「市民協働提案制度」を開始しました。この制度は、地域の諸課題やニーズを解決に導く協働型の地域づくりを行うため、多様な主体からアイデアを求め、行政と提案した団体等が連携し、協力することによって事業化していくための仕組みです。今年度、協働事業の提案を募集したところ、計20件の応募があり、そのうち6件を採用しました。これらの事業は、2011年度に実施していく予定で、今後、地域が活力に溢れるためのきっかけとなることを大いに期待しています。



## 「参加」をあきらめない—— そのこだわりが 人材を創ると信じます

水谷 綾 (社会福祉法人  
大阪ボランティア協会 事務局長)

2011年を迎え、NPOを取り巻く環境に新しい動きが出てきはじめました。一昨年、政府が発表した「新しい公共」宣言によって、「新しい公共がめざすのは一人ひとりに居場所と出番がある」社会をめざすための施策が具体化してきたことです。これは、これまで官が独占してきた領域を「公(おおよけ)」に開き、支えあいと活気ある社会を構築するために、それを国が後押ししようというものです。

施策の中には、市民主体の活動を活性化するための基盤整備やソーシャルサービスの支援事業などがありますが、その施策をより有効にするためにどうすればよいかを考えて問い直しながら動く必要があるでしょう。

市民主体のNPOである以上、その基盤を支えるのは「人材」そのものであり、その人材を育み出すためには、「参加」をより大事に据えておかなければなりません。

大阪ボランティア協会は、1965年の創立以来、一貫して「参加」と「人づくり」にこだわってきました。実際、協会には多くの人が会員として、またはボランティアとして集っています。市民社会の創造をめざして、さまざまなプロジェクトを創出・実現するだけではなく、達成したものはそのクローキングも引き受ける——そのために徹底的な討議を重ね、合意形成型で自分たち自身の活動のあり様を模索し続けています。その理念と実践に共感した多くの人が今も集っており、また、多くの人が地域に巣立っていきました。

今あらためて思うのは、私たちNPOは、国に言われるまでもなく、小さいながらも「居場所」や「新たな人の輪」を作ることを大事にしてきたという事実です。当協会ではこれをずっと「参加」と呼んできたのですが、時代が変わっても変わらないものとして育てていきたいと考えています。

「参加」の輪づくりが新しい縁やつながりを育み、まだその輪が別の輪を広げる——協会自身の実践のチャレンジはまだまだ続きますし、龍谷大学との縁を活かしてこの思いを一にする仲間が増えてくれることを願うばかりです。

# 院生自主シンポジウム

## 地域公共人材像／現場からの声

塩田 健吾 (法学研究科)

2010年度の院生自主シンポジウムでは、過去2回「地域公共人材」というテーマで行われてきた経緯を踏まえ、今年度はその地域公共人材が地域や社会でどのように活躍・展開していくのか、起業をその切り口に、(特活) edge 代表理事の田村太郎さん、有限会社キュアリンクケア代表の谷口知子さん、(特活) み・らいずの山中文さんの3名をお呼びし、参加者の方とともに考える1日となりました。

ゲストのみなさまのお話しを伺う中で、共通していたと感じるのは「目の前にある社会的な矛盾や課題をなんとかしたい。」という想いや、それに基づく行動が率直でシンプルであるということです。地域公共人材に求められるスキルなどは幅広くあるかと思いますが、最も基本的で最も大切なことを改めて認識させて頂いた時間になりました。



## 2010年度 NPO・地方行政研究コース修士論文・課題研究一覧

所属	氏名	論文・課題研究題目
法学研究科	赤田 博幸	自治体のアウトソーシングについての一考察 ～亀岡市の職員研修における事務事業分析の可能性～
〃	河合 良太	地方自治の再構築 ～協働体制の実現にむけて～
〃	岸根 郁朗	コミュニティの多層・多元化状況下における「地域コミュニティ」の意義
〃	小森 美弥子	自治体職員の地域への向き合い方 ～ジビツ・プライドの醸成を通じた受動型職員から能動型職員への変化にむけて～
〃	芝原 浩美	NPO職員にとっての働く場 ～NPOで「働く」可能性を広げるために～
〃	堀 孝弘	地域課題の解決・改善に向けた三者協働行動の創出と発展について～近年の環境基本計画の策定と推進の事例から～
〃	村井 繁光	社会性・社会力を育てるために「子どものまち」のもつべき共通性 ～ユーザーとしての関わりを通して～
〃	山本 晃	散在性不法投棄問題に関する一考察 ～甲賀市の環境政策を事例として～
〃	塩田 健悟	サードセクターにおける「社会性」の今日的意義の検討
〃	船越 亜里沙	生物多様性と非利用価値 ～生物多様性が息づく社会システムの構築に向けて～
経済学研究科	日比野 純一	異文化間対話を促すコミュニティメディアの成立条件
〃	吉田 照美	当事者が求める若年認知症対策についての考察

お疲れさまでした!!

修士論文・課題研究を提出された院生の皆さんにアンケートをお願いしました。以下、内容をまとめたものをお届けします。(編集部)

### 後輩へメッセージをお願いします。

- 1年は本当に短い。
- 書きたいこと、明らかにしたいことが明確であれば、決して大変なことではありません。
- 年末年始は修行僧のような生活が待っています。
- 学部よりも一回り以上成長することができ、学問の楽しさを実感できるコースだと思います。
- 指導教官には図々しいくらい相談に乗ってもらうことが最も重要。
- 積極的に大学院に関わり、多くのことを吸収してください。
- 頑張り次第で大きく成長できます!
- 今社会に必要とされてるものが学べます。

### 修士論文・課題研究を書き終えた気持ちをお聞かせください。

- ようやくスタートラインに立てたような新鮮な清々しさを感じています。
- まだまだ書き足りない。
- 今までの人生の中で経験したことのない達成感。
- 自分を支えてくださった皆様のありがたさを身に染みて感じました。
- まだ、書き続けたい。そして、先生、本当にありがとうございます。
- ひとまず終わった、同時に長い長い研究生活が始まった。
- 安堵感と疲労感が押し寄せてきました。

### 修士論文・課題研究を書くにあたっての注意点をアドバイス下さい。

- テーマ設定を早め早めに練って練って練ることだと思います。
- 1に気力、2に知力、3に体力
- 担当の先生とコミュニケーションは密に。
- 指導は定期的に行きましょう。
- 普段から気になっていることを書き込んでいく論文専用ノートを持ち歩く。
- 各授業でのレポート作成が修論を書くときの力になってきます。
- 冬シーズンは体調管理が難しく集中力も落ちます。
- 同期のメンバーがいることが本当に支えになります。

## 分散型エネルギー時代における自治体の役割



講師 谷口 信雄 (東京都環境局都市地域環境部課長補佐)

この講演を受けて、地方自治体職員としてできることの範囲をとっても狭く設定してしまっていたことに気が付かされました。今回の講演をしていただいた谷口氏は、私と同じ地方自治体の一般職員であるにも関わらず、日本の環境施策を大きく牽引しておられる方です。それは谷口氏が「地方から国を変える」という気概のもと、地方行政の役割を自覚し、さまざまなものを活用して「発想の壁」を乗り越えてきたからでしょう。新しい「公」による、行政と民間・NPO・研究者との信頼関係を築いていくうえで何が重要か、貴重な情報をいただきました。

多くの自治体職員が既存の枠をつくり、そこに安住してしまっているなかで、改めて自治・分権を中心にすえて、自治体職員としてできることを一つ一つ積み重ねていきたいものです。(河合 良太 法学研究科)

open lecture meeting

## お寺の力が地域社会を変える

講師 高橋 卓志 (神宮寺住職、本学社会学部客員教授)

高橋先生が住職を務めておられる神宮寺は、先生の持論「お寺の力が地域社会を変える」の核となっているお寺である。

先生の活動は、国境をこえて広がっているが、地域社会での取り組みとしても、介護施設事業や権利擁護NPO活動、障害者就労支援など多岐にわたっており、お寺を中心にして、地域社会の人達に対し、非営利事業を展開されている。

宗教という背景はさておき、お寺こそ古くからある日本独自のNPOだとあらためて感じた。日本におけるお寺の数は、コンビニの数をはるかに超えているという。

お寺が地域社会で地縁組織の核である自覚をもって社会活動を展開すれば、現在国が設置をしている地域包括センターよりも綿密な関係性の福祉活動が可能なのではないだろうか。先生の持論がもっと現役の全国のご住職に理解されることを望みたい。(吉田 照美 経済学研究科)



### 観光を通じた地域づくり

二十軒 起夫 (2008年度修了生)



私は、定年退職を機に本コースで学び、今は奈良県田原本町観光協会で事務局長として、観光振興と地域づくりに取り組んでいます。長い間慣れ親しんだ民間企業・NPOとはまったく違う職場環境のなか、おまけに最年長の新人？としてとまどいながらの毎日です。小さな町なので一人何役もこなさなくてはなりません、総合的な取り組みもできそうです。

昨年、奈良は平城遷都1300年祭で賑わいました。この活気を定着させるべく、地域の魅力や伝統、歴史に着目しながら、さまざまな観光イベントを企画・実施しています。観光を地域づくりの一環としてとらえ、観光客による外からの目と、住民による中からの目を重ね合わせるにより、新たな発想が生まれてきます。本コースで学んだ「地域公共人材」をいつも意識しながら、地域づくりを楽しんでいきたいと願っています。

修了生の  
研究発表誌  
「草創」が創刊  
されます。

修了生のメンテナンス活動として生まれた「龍谷大学NLネットワーク」が発行する研究誌「草創(そうそう)」が2011年3月に創刊されます。昨年の夏から秋にかけておこなったヒアリング調査の報告や一年間の活動、職場の事例レポート、修了生の近況報告をまとめました。ヒアリング調査では、修了生の現在の活動を把握すると

### 無力さ実感

籾 有理子 (2006年度修了生)

私は、岸和田市役所で働きはじめて3年、保育課に所属し、保育所の入所業務を行っています。具体的には、保育所に入所する児童を決定したり、保育料を徴収したりなどです。

保育所は、日中、仕事や通学、介護などで子どもを保育することができない「保育に欠ける家庭」のための施設です。しかし、「現に」保育に欠ける家庭を優先的に入所決定するため、保育所に子どもを預けてから仕事に就きたいと考えている親にとっては入所がかなり厳しいのが現状です。

「内定をもらった職場から、子どもを預けられないなら内定を取り消すと言われて」「子どもを預けて働かないと生きていけない」など切実な状況を抱えておられる方々があり、基準に則って仕事をしないと生きていけない現状との間で、無力さを感じることも多々あります。そのような時、それぞれの活動の中で課題を感じ、集まってこられたコースの皆さんの姿を思い出しながら、悩みなながらも前に進む力をいただいています。



ともに、地域ごとの小グループに分かれて集まったことで、年度を超えたつながりが密になりました。人材ストックの場、情報交換の場、研究機能をもったネットワークとして広げていきたいと考えています。

近日、皆さんのお手元にも届けますので、ぜひご覧になって下さい。櫻井あかね(2007年度修了生)

修了生の  
今  
その2

# 地域公共人材開発機構 修了生紹介

本コースには、新しい職能資格「地域公共政策士」を創るべく地域公共人材開発機構の科目履修生がいます。1年間共に履修されたこの春修了されるお二人に感想をうかがいました。

人々の間を結ぶ人材のイメージ

久留宮 共樹



私は地域公共人材開発機構が創る、地域公共政策士という新たな職能資格取得に必要なプログラムとして科目等履修生制度を利用し、NPO・地方行政コースの授業を受講してきました。前の大学院時代にも市民活動やNPOについて研究してきたのですが、仕事をしながら学ばれている方、一般の大学院生、早期履修生などの様々な背景をもつ方々と学び・議論するという経験は、以前にはなく非常に新鮮なものでした。

これから私がめざす地域公共人材というものがまったく新しい概念ではなく、すでに多くの先達がいるということ、このコースに来て体験することができました。このコースで学んだ知識や経験を活かし、人々の間を結んでいくという人材像にたしかなかたちを描くことができ、私にとって、今春からの新たなスタートに向けて展望を開くための重要なパーツとなったと思います。

生きた講義は貴重な経験でした

井狩 恵



今回、地域公共人材開発機構の職務の一環で講義を受講しました。実はそれまでも6年間の学生経験があり、その経験から大学の講義は、教員と受講生によるところが大きいと感じていました。NPO・地方行政コースの講義って、それはそれは「生きた講義」だったと思います。理由はやはり教員と受講生。アカデミックだけでなく、実践を踏んできた教員による講義には説得力とリアリティがありました。

また受講生の多くはNPOや行政で働きながらの社会人院生。こうした人たちとの意見のぶつかり合いは、予想できない展開に満ちています。講義はまさにライブで、その講義を逃すのは惜しい。毎回出席してはそう感じました。同じ講義は二度とない。そんな「生きた講義」に参加できた経験はとても貴重だったと思います。

## Internship Report インターンシップ報告

- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 



### 「学生 Place+」の運営にかかわる 岩本 陽子 (法学部4回生)

私は(特)ユースビジョンのインターン生として「学生 Place+」(京都駅前キャンパスプラザ1階)の運営に携わりました。学生 Place+ (がくせいプラス)は学生による社会貢献活動を支援する拠点です。私は受付など一般業務の他に、団体のリサーチや、登録団体への取材、交流企画「Ima〜つどう・つながる・ひろがる〜」の企画・運営に関わりました。

Imaは様々な分野や団体を越えた学生をつながりを作るべく毎月1回交流企画です。「つながる」ことで「他団体の活動が参考になったり、コラボ企画など活動の幅が広がったり、モチベーションもアップ」と、活動をよりよくするプラスが沢山あることを実施しながら確信することができました。私にとってより学びになるようにと配慮してもらい、また丁寧に指導いただき、職員の方々にとっても感謝しています。

- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 



### 行政の可能性と限界を知る 榎本 昌子 (法学部4回生)

昨年6月から今年1月末まで、『協働』というテーマで亀岡市役所生涯学習部市民協働課にお世話になりました。私は主に、かめおか市民活動推進センターの登録団体への調査をおこない、それをもとにした重点施策を本課のアクションプランに沿わせて考察するという一連の業務に関わりました。

団体へのヒアリング調査では、地域の問題にとりくむ団体の声に耳を傾けました。目の前にいらっしゃる方々の気持ちを大事にしながら、「行政」という立場でできることを考える作業は、非常にやりがいがあり、かつ行政の可能性と限界を感じる貴重な経験でした。『行政として何をすべきで、何を民間に任せるべきか』は常に考えさせられました。また、8か月という期間の間、職員の方々をはじめ、地域を盛り上げようとしている多くの方々にお会いできたことも大きな財産となりました。

## 事務局インフォメーション

### 「地域公共政策士」取得に向けた履修証明プログラムの開始

平成20~22年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に選定された「地域公共人材大学連携事業」では、本学をはじめ京都府立大学・京都橘大学、同志社大学、佛教大学、立命館大学、京都産業大学、その他の関係団体の連携により、「地域公共政策士」という資格制度の実現に向け、そのシステム構築とカリキュラム開発に取り組み検討を重ねてきました。

2011年4月から開設される政策学研究科では「科目等履修制度」を利用して、いよいよ「地域公共政策士」取得に向けての本格的な履修が可能となります。正規大学院生以外に、修了生や一般の方々も対象科目を履修することができます。科目などの詳細は、政策学部教務課にお尋ねください。

- ・ 出願期間 2011年3月29~30日、4月1~6日(土日含む 9:00~17:00)
- ・ 出願先 龍谷大学政策学部教務課(大学院担当)  
お問合せ先 075-645-2285
- ・ 受講料 1単位につき10,000円

## NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻20号 2011年3月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先/教育学部(深草)  
TEL: 075-645-7891 FAX: 075-643-5021

H P / [http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集/大矢野修、松浦さと子、土山希美枝(編集補助) 榎並ゆかり、増田貴大、岩本陽子  
印刷/株式会社 田中プリント